

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します



平成29年度 事業報告書



目次

1 ご挨拶 1

戸倉 新樹 浜松医科大学皮膚科学講座 教授
谷口千津子 浜松医科大学附属病院
女性医師支援センター 特任助教

2 事業について 3

・概要 ・取り組み ・メンバー構成

3 実績報告 5

・大学内診療科、県内医療機関との連携体制構築
・情報発信・収集
・相談窓口の設置（情報収集・提供）
・その他支援（マタニティ白衣のレンタル）

4 メディア掲載 16

5 アクセス・発行について 17

ご挨拶



センター長挨拶

戸倉 新樹

浜松医科大学皮膚科学講座 教授

出産、育児の時期における課題は女性医師にとって人生の選択そのものです。そのため、子育て中の女性医師は長期休職となることが多く、復帰してもパートタイマーとして働くことが多いのが現状です。特に時間外勤務や夜勤が多い診療科では、出産、育児により現場を去る女性医師が増加しています。ふじのくに女性医師支援センターは、その支援を組織化し、効率を挙げ、実質的なものとする目的に向かって邁進しています。

一方では女性医師支援は、医師不足の解消という目的もあり、浜松医科大学では「静岡周産期医師長期支援プログラム」を文部科学省の事業として平成21年～25年にかけて行いました。次いで女性医師支援相談窓口設置事業が静岡県の浜松医科大学への補助事業として平成25年から27年まで行われ、さらに現在、浜松医大女性医師支援センターは、静岡県のふじのくに女性医師支援センターとしても機能しています。出産後の女性医師が復帰してもらうことは、静岡県の医療にとっても重要な課題であり、出産後早期の職場復帰を実現させ、非常勤医師の常勤化を促す必要があります。

復帰にとって、情報の集積と発信は大きなツールとなります。県内のどういう病院がどういう条件で女性医師の復帰を行っているか、また勤務形態は斟酌されているか、と言った情報を、最終的にはウェブシステムで得ることができれば、情報収集のための努力を省略することができます。子育て支援についても、認可保育園などの情報収集と発信、センター内での育児のためのスペースの提供、病児病後時保育の運営など重要な役割を担っています。また病院内外において、情報交換や体験談に基づく講演などを企画しており、その情報や成果も提供しています。また浜松医大附属病院には女性医師支援センターの非常勤医師枠による雇用も稼働し、常勤医員でも活用可能となっています。

何よりも、同じ問題や悩みを抱える女性医師が頼る場となることがふじのくに女性医師支援センターの目指すところであり、対象女性医師が気軽にしかも実質的に利用できるように種々の活動を行っています。

専任医師挨拶



谷口 千津子
浜松医科大学附属病院
女性医師支援センター 特任助教

静岡県は地理的に東西に広いという特徴を持ち、人口当たりの医師数が全国的にも少ないとされています。そのような背景の中、出産・育児中の女性医師が順調に復職できなければ医師の少ない地域・医療施設では常勤で勤務されている医師の疲弊をもたらす結果ともなりかねません。従って出産・育児期の女性医師が医療現場に復帰するという事は女性医師自身の重要な問題であると共に静岡県の医療にとっても重要な課題です。

平成29年4月から開設したふじのくに女性医師支援センターは静岡県内の医療機関に携わるすべての女性医師、県外から県内への移動を考えていらっしゃる女性医師に対して妊娠中・育児期であっても、ご自身の家庭環境に合わせた就業環境を整えていけるような就業に関わる様々な必要な情報をワンストップで提供し、家庭生活を充実させつつキャリアを積んでゆくための支援をしていくことを目指しています。

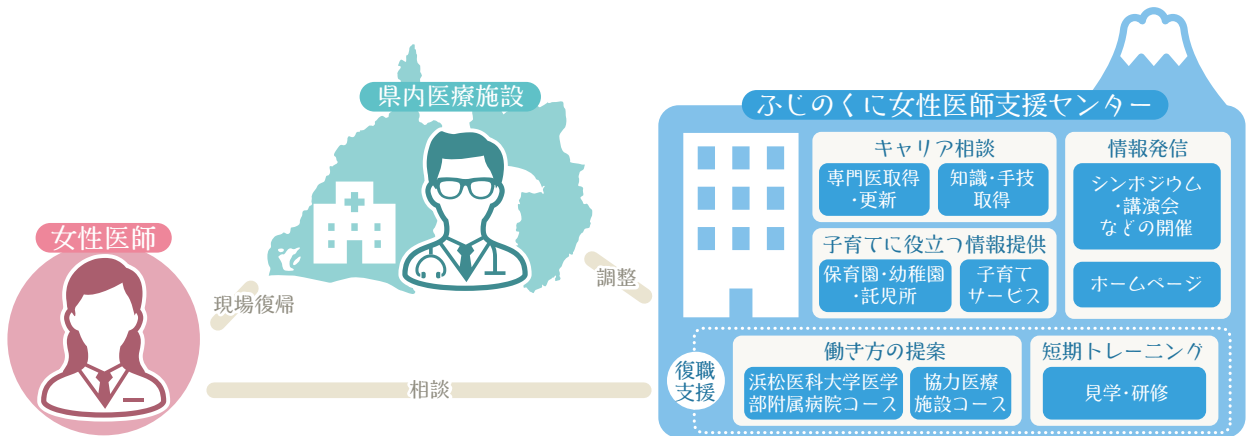
本年度は県内医療施設や浜松医科大学各診療科との連携を確保するための活動を行い、大学診療科講座にご協力いただき、復帰するための道しるべとなる様な就業プログラムを作成しました。また多くの先生方に静岡県内の女性医師医支援を知って頂けるようホームページもこの2月に開設の運びとなりました。本年度は県医師会・浜松医科大学と協力して女性医師に関わる活動をしてまいりましたが、地域的に様々な背景がある医療施設との連携を維持する難しさや現場の女性医師にセンターの活動を知って頂き、利用してもらう事の難しさを実感する一方、相談に来られる先生方のお話を伺って、これからのあり方が見えてきた一年となりました。来年度以降もコーディネーターとして自分の体と頭を使って出来るだけ多くの方のお役に立てるような活動を考えていきたいと思えます。

これからも「ふじのくに女性医師支援センター」の活動にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

事業について

活動概要

県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。



取り組み

キャリアサポート

①キャリアコンサルタント

出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

②復職支援

それぞれの状況に合わせた、働き方の提案を行っています。浜松医科大学をはじめ、県内の医療施設と連携し、スムーズに復職ができるようサポートします。

- 1) ワーキングコース ■浜松医科大学医学部附属病院コース ■協力医療施設コース
- 2) 短期トレーニングコース ■見学コース ■短期研修コース

③啓発活動

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。

これから医師を目指す人、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようイベントを通して情報発信をしています。

両立サポート

- ①情報提供（子どもの預け先、育児サービス等）
- ②マタニティ白衣の無料レンタル

構成メンバー

ふじのくに女性医師支援センター

区 分	内 容
開 設 日	平成29年4月3日(月)
開設場所	浜松医科大学医学部附属病院(病院棟5階 503号室)
組織体制	センター長 戸倉 新樹(浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長) コーディネーター(専任医師) 谷口 千津子(浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任助教) コーディネーター(専従事務員) 袴田 菜穂子(浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター)
時 間	午前9時から午後5時まで

女性医師支援連絡協議会

区 分	内 容
目 的	センターの運営が、設置の趣旨に沿って効果的に行われるようにするため、女性医師支援連絡協議会を設置
協議委員	会長 石田 貴 県健康福祉部医療健康局長 委員 奈良 雅文 県健康福祉部医療健康局技監 委員 角嶋 直美 県立静岡がんセンター内視鏡科医長 委員 野々木 宏 県立総合病院安全衛生監兼集中治療センター長 委員 戸倉 新樹 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長 委員 小林 利彦 県医師会理事 委員 谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任助教

実績報告

大学内診療科（研修責任者）、県内医療機関との連携体制構築

大学内診療科

①医局訪問・復職トレーニングプログラム（モデル）作成

子育て中の女性医師が複数在籍する 17 診療科（研修責任者）を訪問し、事業への協力、「女性医師支援担当者（医師）」の配置と復職トレーニングプログラム（モデル）の作成を依頼しました。うち 14 診療科より 42 モデルプログラムの提示がありました。

※復職トレーニングプログラム…出産や育児で一時的に臨床の第一線から離れざるを得なかった女性医師に対して、専門医取得や専門医としてのキャリア継続支援を目的としてつくられた就業計画書

診療科	日程	プログラム数	診療科	日程	プログラム数
第一内科	5月12日(金)	3	眼科	5月23日(火)	1
第二内科	5月24日(水)	6	耳鼻咽喉科	5月31日(水)	1
第三内科	5月24日(水)	6	放射線科	5月2日 (火)	4
精神科	6月7日(水)	3	麻酔科	6月14日(水)	1
第一外科	6月7日(水)	5	産婦人科	10月6日(金)	3
第二外科	6月20日(火)	—	小児科	5月12日(金)	6
整形外科	5月16日(火)	—	救急科	6月6日(火)	—
皮膚科	10月27日(金)	1	形成外科	6月6日(火)	1
泌尿器科	7月25日(火)	1	プログラム合計		42

②復職トレーニングプログラム運用

平成 29 年度は 2 名の女性医師に対し個々のプログラムを作成し復職支援を行いました。内 1 名は大学女性医師支援枠制度を利用しています。

診療科	復職者数
皮膚科	1
産婦人科	1

③各診療科の対応状況

女性医師支援事業の認知に関しては、今回初めて訪問したことで、女性医師の紹介や相談が前年度に比べ相談件数が増加しました。(平成28年度53件、平成29年度58件)

復職対応については女性医師が少ない診療科の中には大学での復職は対応できない場合があり、県内医療機関(関連病院)との連携が必要となるケースも想定されることが分かりました。全体的には協力的な診療科が多く、今後も引き続き医局訪問を行いながら情報交換と連携体制を強化していくことになりました。

県内医療機関

①訪問・協力依頼

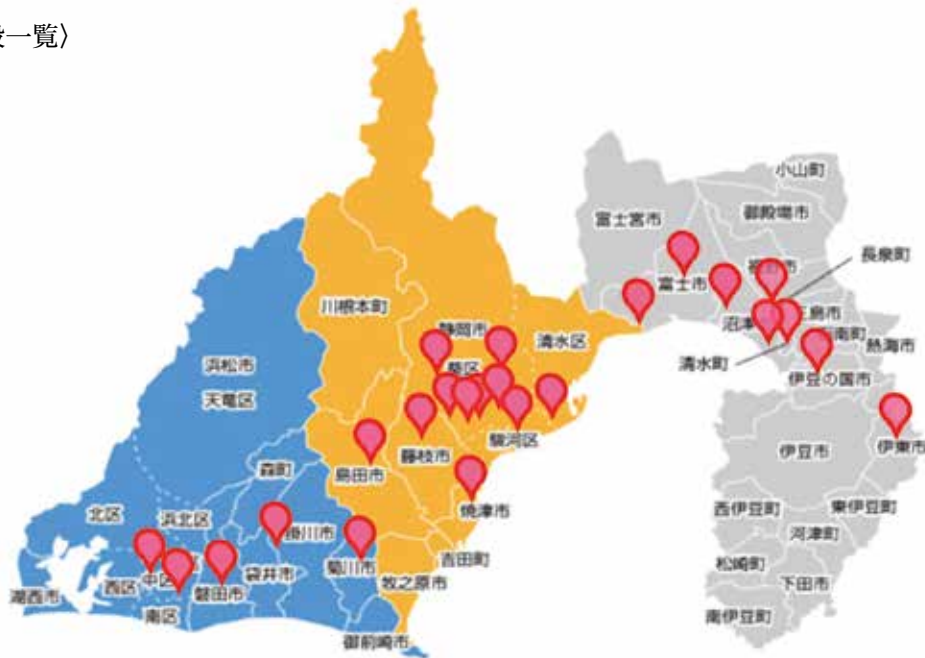
県内の公的医療機関等50施設に女性医師支援担当の配置を依頼し、平成29年8月時点で担当者を配置した24施設を訪問しました。病院長・担当医師・担当事務と面談し下記について依頼しました。

- ・事業への協力(復職支援協力医療施設としてホームページへ登録)
- ・院内の女性医師数等の情報提供
- ・院内での周知活動(チラシの配布・掲示)
- ・担当者を配置している病院については平成30年1月現在、43施設に増え、平成30年度は未訪問の病院を中心に引き続き、訪問を行います。

※復職支援協力医療施設…仕事と家庭の両立に配慮した就業環境を提供する以下の要件を満たす施設

- ◆ 仕事と家庭を両立するための支援制度がある。
- ◆ 専門医取得や更新を目指した就業支援が可能である。
- ◆ 女性医師支援センターホームページに復職支援協力医療施設として登録している。
また、女性医師支援センターのバナーを施設のホームページに貼ることが可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターの活動に協力が可能である。

〈訪問施設一覧〉



西 部	中 部		東 部
磐田市立総合病院	静岡県立こども病院	静岡赤十字病院	共立蒲原総合病院
遠州病院	静岡厚生病院	静岡済生会総合病院	富士市立中央病院
聖隷浜松病院	焼津市立総合病院	市立島田市民病院	国立病院機構静岡医療センター
菊川市立総合病院	静岡市立清水病院	藤枝市立総合病院	沼津市立病院
中東遠総合医療センター	静岡県立総合病院	静岡市立静岡病院	沼津中央病院
	静岡県立こころの医療センター		静岡県立静岡がんセンター
			順天堂大学医学部附属静岡病院
			伊東市民病院

②各病院の対応状況

静岡県は浜松医科大学だけでなく、他県からの大学派遣の病院も多く、施設によって様々です。その為、病院・診療科によっては対応が難しいケースもあることが分かりました。

また、家族の転勤に伴い、短期間で異動するケースも多くあります。復職希望者の個々の状況に応じた支援が必要となる為、各病院と連携を強化しながらより良い復職プランが提供できるよう取り組んでいきます。

情報発信・収集

◆シンポジウム等の開催支援

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しました。

医学生、医師、病院の管理者の先生方が情報共有できるようなイベントを通して情報発信を行いました。

学生・研修医・女性医師交流会 はまキャリ 2017

日時	平成29年7月21日(金)
会場	浜松医科大学第二集会室
参加者	医学生等16名、医師8名

【概要】

毎年好評の交流会は今年で4回目の開催となりました。話題の多くは家庭との両立についてでしたが、中には女性医師支援センターに婚活パーティーを開催してほしい!との要望もありました。毎年、1時間では短いとの声があるので次回はもう少しゆとりのあるプログラムを考えて行きたいと思います。

ご協力いただいた先生方、本当にありがとうございました。



学生・研修医・医師交流会
はまキャリ 2017

仕事と家庭の両立は大変?!
医師同士の結婚ってどう?
専門医を取ってからどう働く?

自分のキャリアプランを
デザインしてみませんか?
先希ドクターがお答えします!

日時 **7月21日(金)**
15:00~16:00

会場 第2集会室

対象 医学生・研修医・医師

お一人でも友達同士でもパートナーと一緒にでも
大歓迎★
雑談形式でお茶とお菓子をご用意しています。
男性医師も参加します!

申込 締切: 7月14日(金)
担当: 岡田
申込先: 053-435-2500
#dr_infophama.med.ac.jp

主催: 浜松医科大学女性医師支援センター
協賛: 株式会社 ツムラ

【アンケートより】

- ・実際に女性医師の方と直接お話を聞ける機会はなかなかないので、生の声を聞いて良かったです。
- ・周りに医療関係者がいないので将来のイメージが描けず心配でしたが、今回の交流会で少し不安が晴れました。
- ・研修で重要なポイントなども聞けました。
- ・今回話せなかった他の先生のお話も聞いてみたいので、また開催して欲しいです。40分×2とかの席のローテーションがあると面白いと思います。

ロールモデル講演会 ～パートナーと育むワーク・ライフ・シナジー～

日時	平成29年10月13日(金)
会場	浜松医科大学多目的ホール
参加者	医学生12名、医師・教員 27名、その他5名

【概要】

今年も44名と多くの方にご参加頂きました。「パートナーと育むワーク・ライフ・シナジー」をテーマに、お互いにどのように協力して毎日を過ごしているか、どんなことが課題なのかをお話し頂きました。

伊藤泰介先生のご講演では、日頃から奥様とのコミュニケーションを大切にされているお話や、男性が家事や育児にも積極的に取り組むためには「女子はまずは男子がやったことを評価しつつ、軌道修正を行っていく」ことが大切であると話し頂きました。

向麻利先生のご講演では、お子様が生まれてから夫婦喧嘩が100倍になったものの、お互いに尊重し合って、仕事も家庭も大切にされていることや、これからライフイベントを迎える方に「自分の中の正直な気持ちにまっすぐ向き合っ、それを大事にしてください」とメッセージを送られました。

藤澤朋幸先生のご講演では、「自分にとってワークやライフがどのような存在なのかを振り返り、考えてみることで、また、5年後10年後は自分がどうありたいのか、具体的な目標を立てつつ定期的に見直すことが大切である。ワークにもライフにも責任をもつことが、どんな形であれ“シナジー効果”に繋がっている。」とお話し頂きました。

今回は医学生だけでなく、医師の方にも多く参加頂きました。また毎年参加して下さる方もおります。この講演会が様々な立場の方の参考となれば幸いです。ご講演頂いた先生方、本当にありがとうございました。



【アンケートより】

- ・講演会に参加すると毎回モチベーションがUPします。育児も仕事も目標を持って頑張ろうと思いました。色々な先生方の考え方・毎日の過ごし方をお聞き出来たのも楽しみに聴いています。
- ・他の家庭のタイムテーブルは知る機会がないので参考になりました。
- ・一般企業の取組も知りたいです。

キャリア支援シンポジウム『医師のキャリアパスとワーク・ライフ・バランス』

日時	平成30年1月27日(土)
会場	ホテルアソシア静岡 3F「橘」
参加者	医師29名、事務12名

【概要】

静岡市にてキャリア支援シンポジウムを開催しました。

福井県済生会病院 里見裕之先生の特別講演では「情けは人のためならず（意味：人に情けを掛けておくと巡りめぐって自分に返ってくる）」をキーワードに夫・父・同僚・上司それぞれの目線での経験をご講演頂きました。奥様も医師であり、職場では女性医師の多い環境の中、どの立場であっても相手を尊重し、信頼する姿勢を大切にすれば相乗効果が生まれ、より良い環境作りに繋がっていくというお話は大変参考になりました。

基調講演では東部・中部・西部の各地域から管理者の先生に取り組みをご講演頂きました。

富士市立中央病院は院内アンケートにおいて勤務状態の満足度に注目し、平成25年度：全体36.1%の結果を受け、医療職確保や医療秘書の採用等を行い休暇の取りやすい環境作りに取り組みました。結果、平成29年のアンケートでは54.8%にまで上昇したそうです。

静岡済生会総合病院では保育所・病児病後児保育だけでなく学童保育も行っており、非常に先進的な育児支援を行っていました。また、地域に開放することで、運用面でも参考になる取り組みでした。

菊川市立総合病院ではキャリアパスの視点から現在行っている家庭医養成プログラムについて、充実した研修内容や多様な働き方について現場の女性医師のメッセージを交えながらご紹介頂きました。

管理者・勤務医・事務・子育てしている方等、様々な立場の方41名にご参加頂きました。また、託児利用も11名と子育て中の先生方にもご参加頂けて大変嬉しく思います。今後も県内医療施設で働く方々が繋がれるよう、より良い会にしていきたいと思っております。ご講演頂きました先生方、本当にありがとうございました。

【アンケートより】

- ・女性医師という枠組みでなく、男性医師、医師としてのキャリアパスを考えることが大事だと思います。各学会での取り組み体制についても知りたいです。
- ・WLBについて、事務の立場からできること、可能性について考えることができました。自治体病院という中で厳しい部分もありますが、職種を超えたコミュニケーションを大切にしていきたいと改めて思いました。

キャリア支援シンポジウム

平成30年1月27日(土) 14:30~16:45

入場無料
無料託児有り(要申込)
締切日:1月19日

医師のキャリアパスとワーク・ライフ・バランス

特別講演
情けは人のためならず
産婦人科医師が子育てと研修医教育から見たもの
講演者 里見 裕之 先生
福井県済生会病院 産婦人科 医師

基調講演(伊内の医師紹介)
【東部】富士市立中央病院 院長 橋本 秀幸 先生
【中部】静岡済生会総合病院 副院長 石山 誠三 先生
【西部】菊川市立総合病院 副院長 村田 義之 先生

パネルディスカッション
「働き方改革」で医師のキャリアパスとワーク・ライフ・バランスをどう実現していくか
【司会】福井県済生会病院 産婦人科 医師 里見 裕之 先生

会場 ホテルアソシア静岡 15階 ベラビスタ
静岡県静岡市葵区黒金町56

対象 医療施設の管理者
勤務医 事務職員

申込み先
所属・氏名や下記の連絡先までお申し込みください。
また、託児を希望される方は、その旨をお伝えください。

静岡済生会女性医師支援センター事務局
Tel/Fax: 053-430-2390
Email: drinfo@hara-med.ac.jp



◆ホームページの開設

【概要】

静岡県内で活動する女性医師の就業や子育てに関する情報とふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載するホームページを公開しました。医師としてのキャリア形成や仕事と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関情報や地域の子育て支援情報をインターネット上で容易に収集できることで県内での就業復帰を後押しすることを目的としています。



<https://www.fujinokuni-w.jp/>

【特徴】

①県内医療機関・地域の子育て支援情報をまとめて提供

女性医師が仕事と家庭を両立するために必要な医療施設の情報や地域の子育て支援情報をまとめて掲載し、自身の家庭環境に応じた就業情報が閲覧できます。

医療施設の育児支援情報

掲載されている情報につきましては、県内全ての医療施設を対象に平成28年度に行ったアンケート調査に基づいて掲載しています。修正箇所や新たに掲載希望の施設は掲載情報をメールにてお知らせください。

施設名	所在地	定員	受入れ年齢	基本保育時間	休所日	時間外		病児保育	病後児保育	子育て		
						早朝	夜間			長期	常時	
下田メディカルセンター	きんめ保育園	10	生後2ヶ月～就学前	8:00～17:30	日・祝(日は月2回)	×	○	○	○	×	×	×

地方自治体の育児支援情報

地方自治体の子育て支援をご紹介します。申込み・問い合わせは各担当施設へお問合せください。一部、ホームページの設置がない施設があります。

地域を選択してください。

地域	市町村	ファミリー・サポート	保育園	病児	病後児	子育て
下田市	下田市	●	●	●	-	●
	河津町	-	●	-	-	●
	松崎町	-	●	-	-	●
賀茂郡	賀茂郡	●	●	-	-	●
	賀茂郡	●	●	-	-	●

②復職協力医療機関の検索

仕事と家庭の両立に配慮した就業環境を提供する県内医療機関を「復職支援協力医療機関」とし、これらの情報を地域別、診療科別に検索できます。ふじのくに女性医師支援センターを介して就業に関する詳細情報も提供しています。

③メールによるキャリアサポート

出産、育児などのライフイベントにより、医師としてのキャリア継続に支援を必要とする方のメール相談を行います。

④ロールモデル紹介

県内医療機関で実際に仕事と家庭を両立している医師の活動を紹介しています。現在子育て中の医師やこれから医師を目指している学生などが県内で活躍している先輩女性医師の実際を閲覧することで自分のキャリアや働き方を見直すきっかけとなり、延いては県内の臨床現場定着に繋がることを期待しています。

相談窓口の設置（情報収集・提供）

出産・育児などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ就業・キャリアに関する相談窓口を開設しています。

対応者	コーディネーター2名（専任医師1名、専従事務員1名）
開設日時	平日9時から17時まで

①相談件数内訳

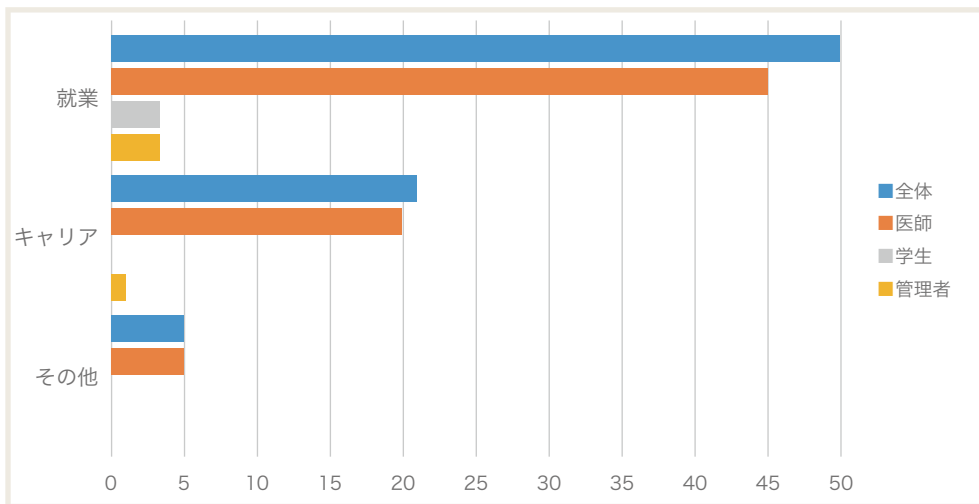
相談者数 31名（医師26名、学生2名、管理者3名）

区分	診療科	医師				学生		管理者
		卒後5年未満	卒後5年～10年未満	卒後10年～15年未満	卒後15年以上	2年生	5年生	
医師	内科		1	4	3			
	小児科		2		4			
	皮膚科		5					
	放射線科		3					
	病理診断科	3						
	外科		2	1				
	眼科			1				
	耳鼻咽喉科							
	産婦人科		17	4				
	麻酔科							
形成外科		2						
学生						1	2	
管理者	伊東市民病院							1
	浜松医科大学							2
合計 58件		3	32	10	7	1	2	3

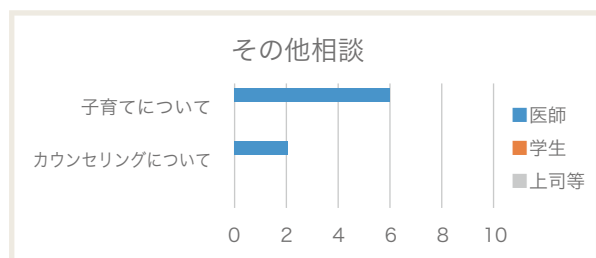
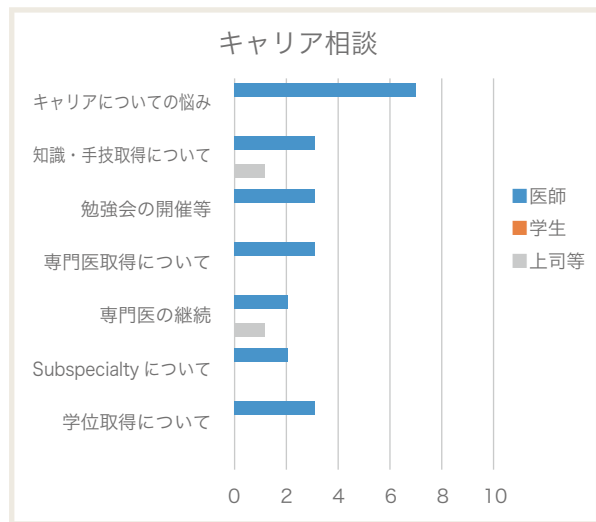
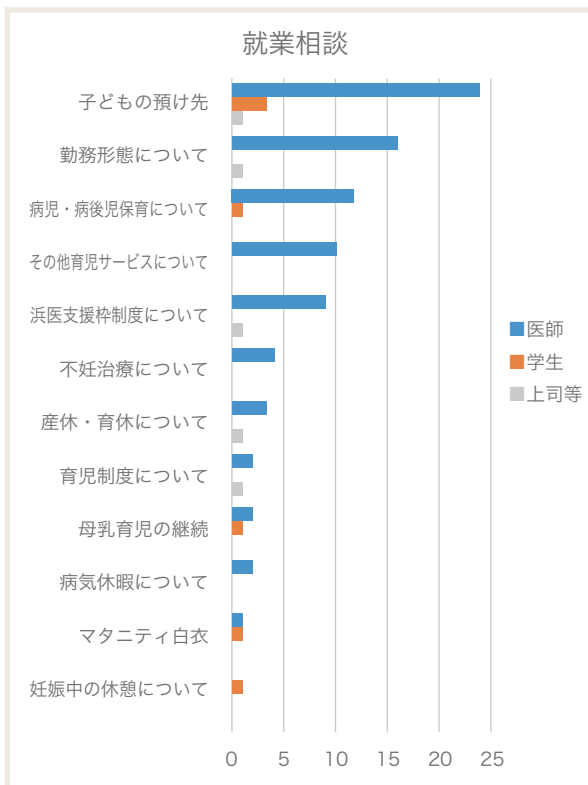
②相談方法別内訳

区分	窓口	電話	メール	計
医師	37	2	13	52
学生	3	0	0	3
管理者	1	1	1	3
計	41	3	14	58

③相談項目（※1回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



④相談内容内訳



その他支援（マタニティ白衣のレンタル）

ふじのくに女性医師支援センターと浜松医科大学女性医師支援センターが協働事業です。産前休暇を取得するまで仕事のモチベーションを保ちながら、快適に業務に携わることが可能となるようサポートしています。

対応者	大 学	その他病院	合 計
医 師	1	3	4
医学生	1	0	1
	合 計		5

【利用者の感想】

■医学部5年生

マタニティ白衣を利用させていただき、ありがとうございました。妊娠期間は数ヶ月しかないため、そのために専用の白衣を買うのはとためらっていましたが、お借りできるというポスターを目にして早速使わせていただきました。普通の白衣ではおなかがきつく、つわりもあり、ボタンを止めると気持ち悪くなってしまふところを、お借りした白衣のおかげで実習に専念することができました。とても助かりました。ありがとうございました。

■放射線科医師

マタニティ白衣はアジャスターで腹围を大きく調整できるので、安心して仕事に臨むことができます。

現在第2子の妊娠7ヶ月です。妊娠5ヶ月に入り、お腹が目立つようになった頃から着用し始めました。実は第1子の妊娠中はこの白衣の存在を知らませんでした。お腹が大きくなってからは前を開けて白衣を着ていましたが、不潔なのではないかと思ったり、恥ずかしい気持ちもありました。今回はそのような思いをせずに済んでいます。

妊娠中の女性医師の方にお薦めしたいと思います。

マタニティ白衣の価格

サイズ	単身	ペア	子供	単位
標準	300	400	200	1日
マタニティ	300	400	200	1日
標準	400	500	300	1日
マタニティ	400	500	300	1日

●2枚1セットでレンタルします。
※標準サイズは浜松医科大学附属病院で貸出可能です。

レンタル方法

- 1 申込書にご記入頂き、メール送信ください。返却に備へて。
- 2 在学確認後、ご来館ください。
- 3 着脱と検閲お直し、又は確認となります。

返却方法

クリーニングを済ませた白衣を窓口にご返却ください。返却時の送料はご負担ください。

お問い合わせ・申し込み

浜松医科大学女性医師支援センター
〒417-8512 浜松市東区早稲田1-1
TEL/FAX 053-423-2380 E-mail: rfu@rkuhama.med.ac.jp

協働事業 浜松医科大学女性医師支援センター・ふじのくに女性医師支援センター

メディア掲載

静岡新聞 平成29年6月8日

▼センター開設とコーディネーター配置について

女性医師の復職後押し



女性医師の相談に応じるコーディネーターの谷口千津子医師
＝6日午後、浜松市東区の浜松医科大学付属病院

社会での経験や、育児や仕事の両立困難による退職の経験を持つ女性医師の復職を後押しする。支援を担う「ふじのくに女性医師支援センター」が本格的に活動する。支援を担うコーディネーターは、浜松医科大学付属病院に所属する。支援は、県内の医師会を通じて展開する。支援は、県内の医師会を通じて展開する。支援は、県内の医師会を通じて展開する。

医療機関の情報網確立

県内唯一の医師育成機関の浜松医科大学付属病院（浜松市東区）は、先行して女性医師支援センターを導入している。5月から子育て中の女性医師向けの支援体制を設けた。最近はその小学校入学後も継続で

浜松大病院 時短、研修でキャリア維持

「医師数の少ない」県南部の病院にどう対応させるか。センターを拠点に連携のためのネットワーク作りを進めたいと語り、同大の仕組みがモデルケースとして普及することに期待する。問い合わせは同センターへ053(435)2380へ

毎日新聞 平成29年6月19日

センター開設とコーディネーター配置について

▼ター配置について



女性医師 復職を支援

「子育て中の女性医師のキャリアアップを支援する」を目的とした「ふじのくに女性医師支援センター」が、浜松医科大学付属病院に開設された。支援を担うコーディネーターは、浜松医科大学付属病院に所属する。支援は、県内の医師会を通じて展開する。

浜松医大付属病院「センター」を開設

「子育て中の女性医師のキャリアアップを支援する」を目的とした「ふじのくに女性医師支援センター」が、浜松医科大学付属病院に開設された。支援を担うコーディネーターは、浜松医科大学付属病院に所属する。支援は、県内の医師会を通じて展開する。

女性医師支援に力

浜松医大に相談センター 復職など後押し

「医師数の少ない」県南部の病院にどう対応させるか。センターを拠点に連携のためのネットワーク作りを進めたいと語り、同大の仕組みがモデルケースとして普及することに期待する。問い合わせは同センターへ053(435)2380へ

▲ 中日新聞 平成29年6月9日
▼ センター開設の様子と事業についての紹介について

▶ 静岡新聞 平成29年8月24日
専任医師の紹介について

ふじのくに女性医師支援センター専任医師を務める

谷口 千津子 さん (浜松町)

この人

「医師としての経験が、子育て中の女性医師のキャリアアップに役立つ」と語る。支援を担うコーディネーターは、浜松医科大学付属病院に所属する。支援は、県内の医師会を通じて展開する。

アクセス・発行について



平成29年度ふじのくに女性医師支援センター活動報告書

発行 印刷日 3月23日

発行 3月30日

発行所 ふじのくに女性医師支援センター

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター内

電話/FAX 053-435-2380

E-mail dr-info@hama-med.ac.jp

URL <https://www.fujinokuni-w.jp/>

編集 センター長 戸倉新樹

コーディネーター（医師）谷口千津子

コーディネーター（事務）袴田菜穂子

